

私 プロレスの味方です！

私は小さい頃から大のプロレスファンです。父がプロレスファンだったこともあって、小さい頃からテレビでプロレスを見ていました。テレビ中継は、毎週金曜日夜 8 時からのゴールデンタイムでした。今は、毎週土曜日深夜に 10 チャンネルでワールドプロレス(新日本プロレス)を放送していて、私は毎週ビデオで録画して見えています。

プロレスは、“筋書きのあるドラマ” だとも言われます。新聞のスポーツ欄には掲載されません。いわば日陰のスポーツです。プロレスが好きな私も、やはり日陰者なのかも知れません。

私は昔は、月刊雑誌だった「ゴング」や「プロレス&ボクシング」を本屋で毎回立ち読みしていました。今はコンビニで「週刊プロレス」を毎週買っています。

プロレスは、力道山と日本テレビによって、日本全国に普及しました。街頭テレビによって、何千人と言う庶民がプロレスを見ました。力道山はテレビを利用してプロレスを普及して、一方、日本テレビはプロレスによって、テレビ番組を普及しました。

力道山が米国人のシャープ兄弟や(鉄人)ルー・テーズを負かすことは、第二次世界大戦で米国に負けた日本人の心に、火を付けました。

プロレスは昔は、日本人 VS 外国人の試合でした。日本人同士が戦うようになったのは、1970 年代ぐらいからかもしれません。プロレスは、技をかける方と、技を受ける方によって、試合が進みます。相手の技は、お互いに受け合わなければ、試合は成り立ちません。強い選手は、攻撃の必殺技もありますが、受け身が強くなければなりません。

プロレスの歴史は、団体の分裂の歴史です。日本プロレス(力道山・豊登・ジャイアント馬場・アントニオ猪木)から、新日本プロレス(アントニオ猪木・坂口征二・藤波辰爾)と全日本プロレス(ジャイアント馬場・ジャンボ鶴田・天竜源一郎)・国際プロレス(ラッシュャー木村・ストロング小林)に分裂しました。全日本プロレスからは、プロレスリングノア(三沢光晴・川田利明・小橋健太)が独立します。

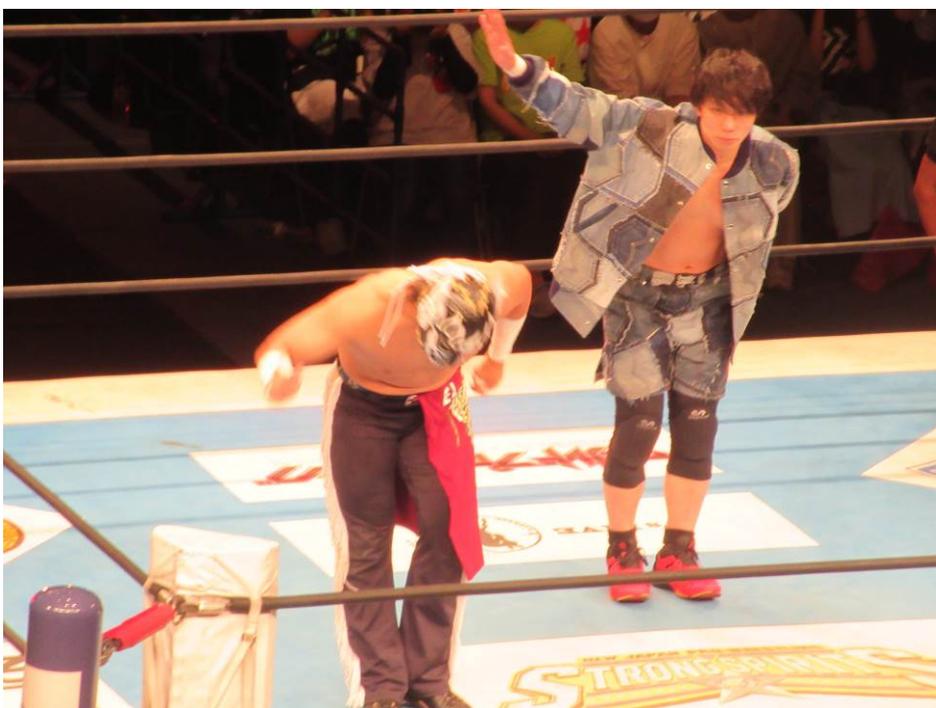
現在は、新日本プロレス・プロレスリングノア・全日本プロレス・ドラゴンゲートが大きな団体です。また、女子プロレスも、昔は全日本女子プロレス、現在はスターダムが人気を博しています。

この 3 年間、プロレスもコロナ禍に遭いました。試合ができない期間もありました。各団体は動画などを配信して、何とか持ち応えました。観客が声を出して声援できるようになったのも、この半年ぐらいです。

私は、仙台でプロレスの試合があるときは、たまに見に行きます。最近のプロレスは、若者や特に女性の熱烈ファンが多いです。



【棚橋弘至・宮原健斗・清宮海斗（ALL TOGETHER AGAIN（新日本プロレス・全日本プロレス・プロレスリングノア合同興行・両国国技館）[23年6月9日撮影]】



【エル・デスペラード対 YOU（ベストオブザスーパージュニア 30・仙台サンプラザホール（23年5月17日撮影）】